

■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① 春になれば、花おのづから咲く。
- ② 夜もすがら、虫の声を聞く。
- ③ 老いたる僧、文を書かず。
- ④ 山の端に月の出づるを待つ。
- ⑤ 暁に、鳥のはやく起く。
- ⑥ 童、笛を吹きて遊ぶ。
- ⑦ 庭の桜を朝な朝な見る。
- ⑧ 旅人、川の水を過ぎて行く。
- ⑨ 師の教へを受くるは尊し。
- ⑩ 子ども、毬を蹴る。
- ⑪ 客人、はるばると都より来。
- ⑫ 朝ごとに香をす。
- ⑬ 秋深く、虫の死ぬを哀れむ。
- ⑭ 嵐すぎて、空に星あり。
- ⑮ 日暮れて、客も家路に往ぬ。
- ⑯ 翁、竹の中に光るものを得。

■ 設問（全28問）

1. 傍線①「咲く」の活用の種類を答えよ。

2. 次の問いに答えよ。

傍線①「咲く」に打消の助動詞「ず」を付けるとどうなるか、ひらがなで書け。

そのとき「ず」のすぐ上の音は何段か。

3. 傍線②「聞く」の活用の種類を答えよ。

4. 傍線③「書か」の活用の種類を答えよ。

5. 傍線③「書か」の活用形を答えよ。

6. 傍線④「出づる」の活用の種類を答えよ。

7. 傍線④「出づる」の活用形を答えよ。

8. 傍線⑤「起く」の活用の種類を答えよ。

9. 次の問いに答えよ。

傍線⑤「起く」に打消の助動詞「ず」を付けるとどうなるか、ひらがなで書け。

そのとき「ず」のすぐ上の音は何段か。

10. 傍線⑥「吹き」の活用形を答えよ。

11. 傍線⑦「見る」の活用の種類を答えよ。

12. 傍線⑧「過ぎ」の活用の種類を答えよ。
13. 傍線⑧「過ぎ」の終止形（基本形）を答えよ。
14. 傍線⑨「受く」の活用の種類を答えよ。
15. 傍線⑨「受く」の終止形（基本形）を答えよ。
16. 傍線⑩「蹴る」の活用の種類を答えよ。
17. 傍線⑪「来」の活用の種類を答えよ。
18. 傍線⑪「来」の活用形を答えよ。
19. 傍線⑫「す」の活用の種類を答えよ。
20. 傍線⑬「死ぬ」の活用の種類を答えよ。
21. 傍線⑭「あり」の活用の種類を答えよ。
22. 傍線⑮「往ぬ」の活用の種類を答えよ。
23. 傍線⑯「得」の活用の種類を答えよ。
24. 本文中の傍線部のうち、上一段活用の動詞を一つ選び、番号で答えよ。
25. 本文中の傍線部のうち、下一段活用の動詞を一つ選び、番号で答えよ。
26. 本文中の傍線部のうち、変格活用（カ変・サ変・ナ変・ラ変）の動詞をすべて選び、番号で答えよ。
27. 【記述】打消の助動詞「ず」を付ける見分け方では、四段・上二段・下二段をどのように区別するか。「ず」の直前の音に着目して説明せよ。
28. 【記述】上一段活用・下一段活用・各変格活用は語数が限られている。下一段活用に当たる動詞を一語挙げ、あわせてラ行変格活用の動詞をすべて挙げよ。